

ストライキ復活！ ノウハウも知らず 戸惑う労使



労

使の賃上げ交渉で“伝家の宝刀”でもあるストライキ

によって賃上げを実現した労働組合が徐々に増えている。厚生労働

省の「労働争議統計調査」（総争議

件数）によると、ストライキのピー

クは1974年の1万462件。

ちなみにこの年の賃上げ率は

32・9%という驚くべき数値だった。

ストライキは以後、減少し、

1990年を境に2000件を下

回り、2019年に268件ま

で落ち込んだものの、その後は

300件前後と横ばいで推移して

いる。

今年の賃上げ交渉では大手寿司

チェーンの店舗がストライキに

よって時給60円アップを勝ち取っ

たことがメディアでも話題となっ

た。きっかけはパート・アルバイト

が、周囲の同業の店に比べて時

給が低く、せめて周囲の店と同じ

時給にしてほしいというささやか

な要求から始まった。しかし経営

側が聞き入れずストに突入。ストの様子が一時的にはじめメディアで報道されるようになり、時給増で妥結した。

ストの効果について産業別労働組合の幹部は「ストライキは短時間であっても仕事を離脱することになり、労使が決定的に対峙することを経営者は怖がる。避けたいという気持ちは誰もが持っている」と語る。ただし、多くの労働組合員はストライキという言葉は知っていても、いったいどんなことをやるのか知らない人がほとんど。幹部は「正直言って、ストライキの経験もなく、やり方を知らないのです、昔の古い先輩に聞きながら、どうやれば効果的なのかを模索しているのが実状だ」と語る。

長年賃上げが停滞し、賃上げ交渉のやり方がわからないという話を労使からよく聞いたが、同様にストライキについてもノウハウも含めて、労使ともどう対応してよいのかとまどっているようだ。